

取扱説明書

感震ブレーカーまもれーる 地震くん RDJ10000W

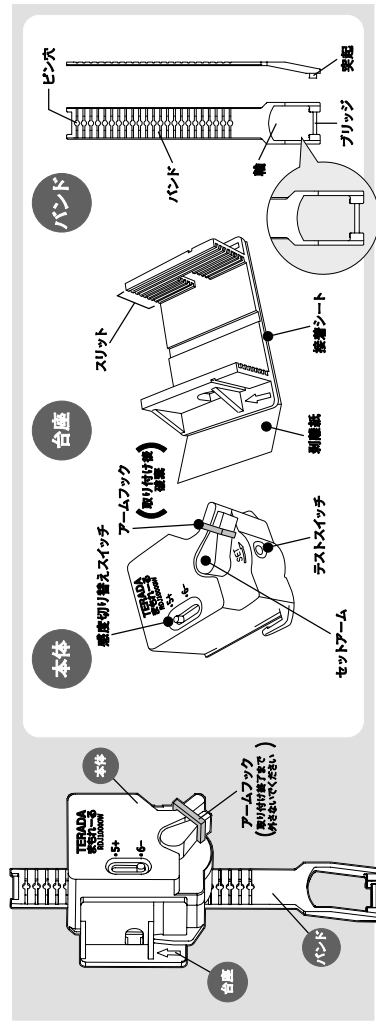
このたびは、お買い上げいただきありがとうございます。

●この取扱説明書をよくお読みください。正しくお使いください。●本書はいつでも見る事ができるよう大切に保管してください。

本製品の特徴

本製品は、震度5強又は震度6弱の大地震発生時に、メカニカルセンサーが地震を感じ、ブレーカーのスイッチを強制的に遮断する事で地震による通電火災を防止する簡易タイプの感震ブレーカーです。各種タイプの分電盤(ブレーカー)に対応が可能となっております。 ※一部、対応できないタイプがあります。

各部の名称



製品の構成

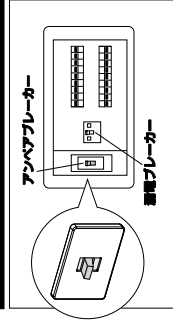
- 本体：1個(構成：本体、台座、バンド、アームフック 各1個) ●アルコールパッド：1枚
- 取扱説明書(本書)：1部 ※開封したら構成部品をご確認ください。

お客様にご用意いただく物

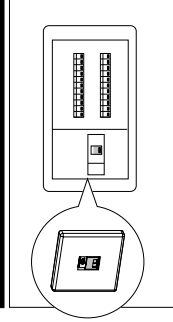
- はさみ(取付けの際にバンドが重い場合、カットする為にご用意)

分電盤の種類

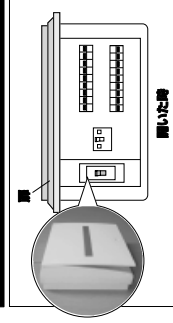
レバー突出型



レバー埋込型



取付タイプ



取り付け場所のご注意

- 通常は漏電ブレーカーに取り付けます。漏電ブレーカーに取り付けできない場合はアンパアブレーカーに取り付けます。
- ほとんどの場合、レバー突出型にはそのまま取り付けができます。レバー埋込型は本体の高さ調整のためスリット位置の変更が必要になります。そのまま取り付けができないときやスリット位置の変更が必要ときは「取り付け例」、「取り付け方法」を参考にしてください。

作業前注意事項

- 日中閉まっているときに取り付けをしてください。
- 取付けの際にブレーカーが切れますので、ご家庭内で充電がなくなる可能性がある機器がございましたら、対策を講じてください。(監視機器・HDMI機器・録音中の録音機・録音中のテレビやゲーム機・パソコンなど)
- 分電盤は通常高い位置に設置されています。高い位置での作業をする際、落下などの危険がないようご注意ください。

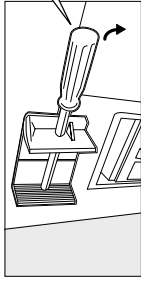
取り外し方法

- 必ず下記の方法に従って外してください。他の方法で外した場合は分電盤や本製品が破損する恐れがあります。

- ① 台座から本体をスライドして外し、台座のみ残った状態にします。



- ② ドライバーなどを台座溝の穴に通し、分電盤に対し平行に回します。分電盤を押さえてゆっくり回転させてはがしてください。回す際は裏に力を入れず、ゆっくり回してください。



再取り付けするときは、別添いの交換用接着シートをつける前によく接着面を清掃してください。

その他の操作

- ブレーカーが遮断した場合の操作
各電線製品の異常がないことを確認の上、本体のセットアームをセットし、ブレーカーのレバーをONにしてください。
- 作動感度の切り替え
1年に1回テストスイッチを押し、ブレーカーがOFFになることを確認してください。点検後は本体のセットアームを本体裏面通りにセットし、その後ブレーカーのレバーをONにして復帰してください。
- 定期点検
1年に1回テストスイッチを押し、ブレーカーがOFFになることを確認してください。点検後は本体のセットアームを本体裏面通りにセットし、その後ブレーカーのレバーをONにして復帰してください。

取り付けQ&A

質問	回答
カバー付きの分電盤に取り付ける場合は?	カバーは完全に閉まりません。半開放状態でも動作には影響がありません。
取り付け面が狭いのですが大丈夫ですか?	遮断部の半分以上の面積が遮断する場所であれば取り付け可能です。
分電盤に注意書きのシールが貼ってある	できる限り注意書きシールを剥けて取り付けてください。
テストスイッチを押しても動作しない	セットアームにアームフックが付いていませんか? 取り外してください。

保守・点検

- 1年に一度はテストスイッチを使い、正常に動作するかをご確認ください。
- 万が一製品の不良などがございましたら恐れ入りますが購入代理店もしくは右記お問い合わせ先へご連絡ください。
- 別添品：交換用接着シート/アルコールパッド(LQ-47)

お問い合わせ先

株式会社寺田電機製作所
〒194-0004 東京都町田市鶴間660
TEL:0120-606-046
<http://www.terada-ele.co.jp/>

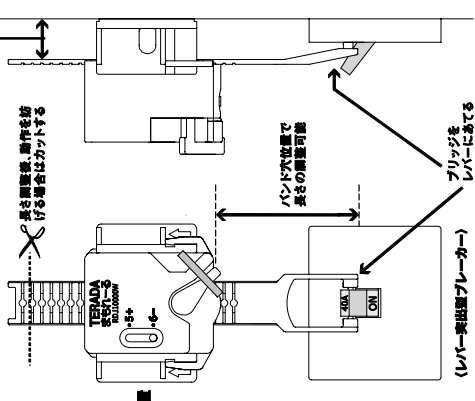
▲ 使用上の注意事項

- 本製品は地震による通電火災を防止するもので、災害や事故等による被害を消滅するものではありません。
- 一部、対応できないタイプの分電盤(ブレーカー)があります。
- 取扱説明書と異なる取り付けを行った場合は機能しないことがあります。
- 落下等の衝撃は遮断の原因になります。なお感震ブレーカーアダプターとしての使用目的以外のご使用はご遠慮ください。
- 本製品は設定した震度の揺れを感じると同時にブレーカーをOFFにします。電源が遮断されても問題がないことを確認してからご使用ください。また、屋内が暗くなりますので懐中電灯を準備されることをおすすめします。
- 地震の強度や分電盤の材質によって、正常に動作しない事があります。
- 取扱説明書と異なる外し方をした場合は本製品が破損する恐れがあります。
- 分解・改造は行わないでください。
- 予告なく製品の仕様を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品の使用に起因するあらゆる派生的損害について弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

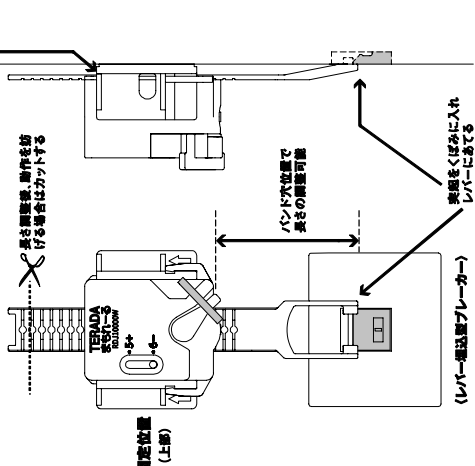
取り付け例

ブレーカー上部への取り付け

例1：レバー突出型の場合

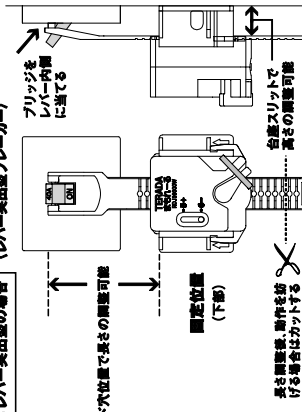


例2：レバー埋込型の場合

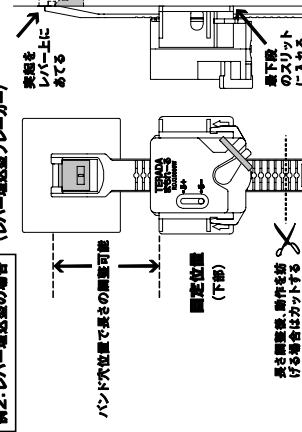


ブレーカー下部への取り付け

例1：レバー突出型の場合



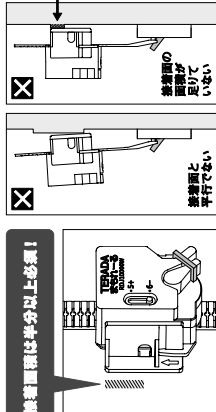
例2：レバー埋込型の場合



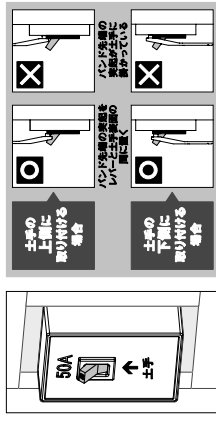
取り付け時の注意

接着位置は曲面を避け、台座の半分以上が接着できる場所を選んでください。

接着量は半分以上必ず！



レバーの周囲に土手があるブレーカーの場合は以下にご注意ください。



取り付け方法

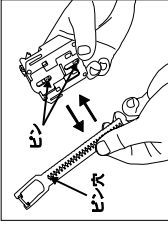
1 本体の接着位置の確認

「取り付け例」及び「取り付け時の注意」をご参照の上、バンドのブリッジをブレーカーレバーに当て、本製品の接着位置を確認します。接着位置及バンドの高さ、台座スリットの高さに両面がなければ②接着位置の確認に進みます。

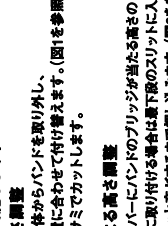
※調整が必要な場合は下記を実行します。

- **バンドの付け替えによる長さ調整**
台座から本体を外します。次に本体からバンドを取り外し、ブレーカーレバーからの接着位置に合わせて付け替えます。(図1を参照) バンドが動作を妨げる場合はハサミでカットします。
- **台座スリットの入れ替えによる高さ調整**
台座スリットを外し、ブレーカーレバーにバンドのブリッジが当たる高さのスリットに入れます。レバー埋込型に取り付ける場合は最下段のスリットに入れます。本体をスリットに入れるときはカチッと音がするまで押し込みます。(図2を参照)

(図1)

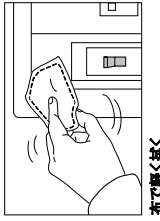


(図2)



2 接着位置の清掃

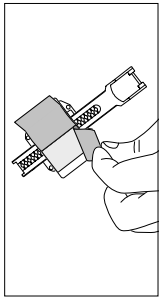
接着する位置が決まったら、乾いた布でふいて、ホコリを取り除きます。付属のアルコールパッドを使い、接着部分をきれいにしします。※アルコールが乾くまでは貼り付けをいけません。



アルコールパッドで仕上げ

3 剥離紙をはがす

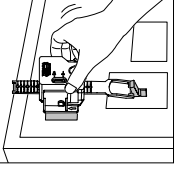
台座の接着部を手前に向け、図のように左側の小さい方の剥離紙をはがします。



4 仮固定

バンドを目標にし、垂直になるように手で持ちます。バンドのブリッジをブレーカーのレバーに軽く押しあてて本体を分断線に軽く押し付けます。

※突出型の場合、埋込型の場合の取り付け方は、「取り付け例」をご参照ください。

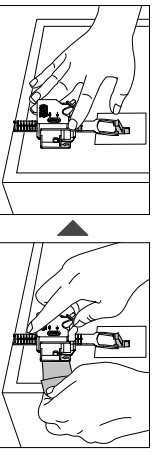


チェックポイント

- バンドは仮固定ですか？
- レバー突出型の場合、バンドのブリッジがレバーにあっていますか？
- レバー埋込型の場合、本体が台座の最下段のスリットに入っていますか？
- バンドの突起がくぼみに入っていますか？
- フェックのねじが正しく必要の場合、仮固定をはがしてやり直してください。

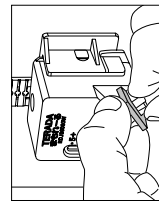
5 本固定

外に出ている剥離紙を外側へ引きながらはがします。本体の中央部を強く押し、しっかりと固定してください。



6 アームフックの取り外し

右手でセットアームの先端を握りつつ、左手でアームフックを手前方向に引き抜きます。



7 動作テスト

セットアームを本体の表示通りにセットし、ブレーカーレバーがONになっていることを確認します。テストスイッチを押してブレーカーレバーがOFFになることを確認します。動作に問題がなければセットアームを再度セットし、ブレーカーレバーをONにして完了です。

